

# 大空への鎮魂

第 24 号 平成 25 年 (2013) 7 月 1 日

特定非営利活動法人  
旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会  
発行者 臼田 智子

新ホームページ  
<http://www.okegawa-hiko.jp>

この春の大きな動き。2 月、「旧若宮寮跡地活用検討委員会」が、分教場の遺構は保存すべきと桶川市長に答申し、4 月の桶川市長選では、本会の小野克典理事が市長に当選、5 月、特攻隊員の心情をテーマにした劇場映画「空人(くうじん)」の撮影が分教場跡地で行われました。そして 6 月、桶川市は桶川市議会において、保存のための整備計画を策定すると表明しました。



## 映画「空人(くうじん)」の撮影(旧桶川分教場兵舎前)

(台本から) 隊長『わが海軍は、連合軍の本土上陸を阻止するため、航空機による特攻作戦を敢行する。心身ともに健全で、この作戦に参加したい者は順次、一步前に出でよ!』

5 月 13 日から 15 日の 3 日間、分教場跡地において、劇場公開映画「空人(くうじん)」の撮影が行われました。特攻隊員を志願したが、急病のため、代わりに信頼する先輩が特攻隊として出撃することに・・・主人公の戦後 70 年にわたる人生の旅路を描いたもので、営庭での特攻隊志願のシーン(上写真)や、旧兵舎内の廊下、車庫棟に製作した内務班(宿舍内)のセットなどで、隊員に選ばれた後の心の葛藤が描かれました。また、ホンダ・エアポートでは、ゼロ戦の模型(10 分の 8)の前でも撮影が行われました。

桶川分教場でも、昭和 20 年 3 月 27 日、ここで訓練していた特攻隊に対し、知覧行き 명령が下ります。当時、桶川にいた特攻隊員の多田計之さん、轟勲さんが、そのことを手記に残しています(2~4 ページ)。そして、特攻隊編成の数日後、副隊長クラスの 1 名が後進の指導のためと隊員から外され、代わりに伍長が加わります。

## 映画「空人（くうじん）」

原作：清宮 零 監督：小沼雄一

製作：(株) 誠和企画

配役：奥野 匡 高橋かおり

織本順吉

プロデューサー：徳永裕明

公開：平成 27 年（予定）

【解説】海軍で、特攻を志願したが、病気のため信頼する先輩が特攻隊として出撃。戦後 70 年、先輩の故郷山形に墓参に行き、当時心を寄せていた先輩の妹の子・紀和に出会う。未婚で亡くなった人が死後の世界で結ばれるという、天童市の若松寺に奉納された「むさかり絵馬」の話を取り込んだドラマであるが、特攻隊員を「忌避する」、もしくは「忌避したい」という心情を描いたことは、当時の特攻隊員の心情を思いやる上で、関係者の心を揺さぶる初めての映画ではないかと思う。

旧兵舎の一室を楽屋として提供し、撮影準備から、関係者約 30 名の 3 日間の深夜にわたる撮影作業には本会会員が協力し、撮影の様子は朝日新聞埼玉版(5.22 付)で、また、天童市でのロケの様子は山形新聞で紹介された。

(事務局・鈴木)



山形新聞 (H25.5.26 付)

## 桶川飛行学校での特攻隊編成に関する記述

(多田計之、高見澤博一、轟勲：敬称略)

\*昭和 20 年 3 月ごろ、桶川飛行学校(桶川分教場)で、特攻訓練をしていた人の戦後の手記などから、特攻隊編成に関する記述を抜粋しました。なお、多田計之さん、轟勲さんの手記は、それぞれ同 14 号、同 17 号に掲載してありますが、高見澤博一さんのインタビュー掲載は初めてです。

なお、特操 3 期・中村輝雄さんからの手紙を会報第 4 号で一部を掲載しておりますが、次号に詳しく掲載します。

### 多田計之

師団より「来年の進攻で本土決戦を覚悟せよ。今、日本を守るために特別

### 【多田計之(かずゆき)さん】

広島出身で大正 8 年生。早大卒後、広島 of 被服廠に勤務していたが、昭和 18 年 10 月仙台陸軍飛行学校に特操 1 期生として入隊。19 年 4 月熊谷飛行学校教官となり、桶川では特攻隊(振武隊)を編成し訓練。第 79 振武隊を見送ったあと教官として残ったが、5 月、桶川教育隊機能の移転に伴い北海道札幌へ赴任。

4 月 5 日、第 79 振武隊の出発の様子をカメラに収めており、桶川から特攻隊が出発したことが明らかになった。近くの旧川田谷郵便局の家に、ほかの特攻隊員 2 名と下宿していた。旧郵便局は洋館風の建物で、現在の上尾警察書川田谷駐在所隣に現存している。

攻撃隊員を募るので、志願する者は申し出よ」との通知が来たと伝達あり。

教育隊将校室に一期生が全員集合し、志願することを決定した。早速、和紙に部隊名、官位、姓名を書いて署名し、親指に小刀で切りつけ血判を押した。この特攻隊は振武特別攻撃隊と名称が付けられた。私は、髪を切り束ねて紙に巻き、遺書を認めて母

## 高見澤博一

＊平成 20 年 9 月、項目別の質問に答えて。

◆浅井隊長(当時の桶川教育隊長)から、何人呼ばれたか記憶はないが、私のほか、村田、森山がいた。隊長が言った。

「戦争の現状に鑑み、飛行機で爆弾を抱いて体当たりする戦法が最後の手段と考えられる。『熱望』『希望』『希望せず』のいずれかを書き、官位、姓名を記して捺印、密封の上、師団長閣下へ提出せよ」。隊長は「決めるとき、親に相談してはならない。もちろん戦友を誘ってはならない。強制してもならない」と付け加えた。私と村田、森山は「熱望」と書いた。

◆熱望は三つあり、「希望せず」はひとつもなかったということのようで、閣下(熊谷飛行学

校校長)よりお褒めの言葉を戴いたと、隊長から聞いた。また、「この件については他言を許さない。行く時は本官(隊長)も付いていく」という有り難い言葉もあった。

◆私と森山は認印を押したが、血判を押したものが一人いた。村田だった。私は「血判は、指を切り落とすのか」と村田に聞いたところ、「刀の先でちょっと刺すと血がにじみ出る。そしたら、そのまま押すと簡単だ」

◆特攻隊の出発は 2、3 回あったと記憶するが、どこへ出発したのか知らない。特攻志願の件については、今となっても、公表していいのかどうか躊躇するものである。もし、批判があるとすれば、責任は私にある。

に送った。秘かに、追伸として、今までの日記帳を焼却して欲しいと書いた。辞世の句は、「海行かば 明日無き命 山桜」で、色紙に書き留めておいた。

(色紙は、桶川飛行学校で看護婦をしていた女性に託されていたが、現在は本会が保管している。)

会のホームページ リニューアル  
<http://www.okegawa-hiko.jp>

### 【高見澤博一(ひろいち)さん】

大正 10 年 7 月 4 日生まれ。長野県南佐久郡佐久穂町出身。昭和 17 年現役兵として歩兵 130 連隊入営。半年後、志願して甲種幹部候補生(操縦第 1 期)として仙台陸軍教導学校(予備士官学校)へ。大刀洗陸軍飛行学校を経て陸軍少尉任官。フィリピン戦線を経て昭和 20 年初め、熊谷陸軍飛行学校桶川教育隊付。特操 2 期、3 期、少飛 15 期、16 期を教える。

第 79 振武隊池田保男少尉が桶川出発の朝、父母と撮った写真にも納まっている。「どこの隊だったか記憶がないが、食い放題、飲み放題の 1 日があった」。桶川の隣町の北本市に住む小倉光男さんは、高見澤少尉のことを覚えているという。特攻隊員たちには、時々、高級料亭などの慰問があり、庭先の屋台で、ビールを注ぎあっている写真が残っている(会報第 18 号表紙)。

## 轟 勲

昭和20年3月、全員が講堂に集められ、隊長(浅井 策)から「48時間を与える。この間に良く考えて特攻隊に参加するか否かを考えるように」との話があった。この月、硫黄島が陥落し、日本への空襲は激しさを増していた。

48時間後、我々特操3期だけでなく、全操縦者が封筒に入れた紙を隊長に提出した。その紙には、「熱望す」「希望す」「希望せず」の3種類からひとつ書くことになっていた。もちろん、私は、「熱望す」と書いた。のちに、噂話として、誰か「希望せず」と書いたのが一人いた。何でも、その人は下士官だった、と伝わってきた。我々特操士官(特別操見習士官)は、全員、「熱望す」と書いたという。

3月末、特攻隊4隊が、この桶川基地で決定した。隊長1、特操士官4、下士官1の6機編成、私は第一航空司令部付第327特別攻撃隊員に選ばれた。

### 【轟 勲 (とどろき いさお) さん】

大正11年1月1日生まれ。熊本県出身。戦後は福岡県在住。平成16年9月逝去。戦後、岩手教育隊の特操3期生を中心とする特操三期生の集まり「讚三会」に参加。照会状を差し上げたとき、勲さんはすでに故人となられており、奥様から、原稿「自分史」をいただいた。岩手教育隊の特操3期生は、40~50人が”教育要員”として、昭和19年秋、桶川に来ており、その多くは、翌年1月に転出しているが、轟さんらは、特攻要員として残された。

DVD『熊谷陸軍飛行学校桶川分教場』  
(50分) 2,000円(送料込)  
販売中 (株)ユニモト電話 03-3314-7021

## お知らせ

- 平成25年7月25日(木)~7月29日(月) 10:00~18:00

「平和のための埼玉の戦争展」 桶川飛行学校コーナー展示  
特集『練習機を灰緑色に塗り替えて~第79振武特攻隊~』

27、28日16:00~ビデオ上映『熊谷陸軍飛行学校桶川分教場』(50分)

場所 JR浦和駅西口前 コルソ7階ホール \*事務局は28日午後行きます。

- 第79振武隊 二村源八少尉の甥 桶川飛行学校を訪問

今まで遺族と連絡の取れなかった大分県出身の二村源八(ふたむら げんぱち)少尉の甥・山口新平さんが、4月14日(日)桶川飛行学校を訪れました。特攻というものと叔父の辿った生涯に涙し、その思いを綴ってくれました。次号に掲載予定です。

### <編集後記>

こんなところに、このコーナーがきてしまっ  
てすみません。この会報は5、6ページもありま  
す。表紙写真の映画の原作者・清宮零さんが、6  
月9日、桶川飛行学校に来られたことが受付簿  
で分かりました。ご自身も特攻隊員だったそう  
ですが、突然のことで、会として対応できな  
かったことが残念でした。表紙の撮影の後、小野  
新市長、臼田商工会長と出演者、スタッフで記念  
写真を撮りました。市長は、これを機にフィル  
ムコミッションを立ち上げたいと意気込んでい  
ました。(S)

### 特定非営利活動法人

旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会

会長 臼田 智子

(法人住所) 桶川市西2-4-21 会員130名  
[事務局] 〒350-0133 埼玉県比企郡川島町表403  
(鈴木) 電話(携帯)090-2554-7429

入会は郵便振替で番号00120-8-297950

名義「旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会」  
通信欄に「入会申込」と記入。できればコメン  
トも。年会費2,000円。振込料不要の用紙希望  
はお電話で。「大空への鎮魂」年4回発行。

第79 振武特攻隊員が残したもの(その13)

第23号でも紹介しましたが、桶川飛行学校跡地で、解説活動が続いている少飛十四期出身の瀬戸山定(せとやまさだむ)さんが、今まで「大空への鎮魂」に掲載した記事、拝司総吉の戦後の手記『心乃饗宴』、佐藤新平の遺書『留魂録』、清水義雄の遺書などを参考に、特攻隊の編成から桶川出發までの風景、下関の小月までの航路、知覧からの出撃までの様子を、一部推測を加えながら立体的に解説した冊子をまとめました。

その中から抜粋して、掲載します。なお、桶川出發直前に特攻隊員から外された拝司総吉さんは、戦後、瀬戸山さんが勤務した自衛隊の上司でもあり、『心乃饗宴』は、同氏が戦後に著した手記です。

特別攻撃隊の編成・訓練・編成換え

太平洋戦争(当時は「大東亜戦争」と呼んだ)の決戦場と言われたレイテ攻防にも敗れ、制海権制空権を失った日本軍は、「連合軍沖縄上陸近し」として、昭和二十年三月二十六日「天一号作戦」(沖縄撃滅作戦)を發動した。

これを受けた第六航空軍は、特別攻撃隊編成を

計画し、三月二十七日、桶川分教場で訓練中の隊員に特別攻撃隊編成命令を下達した。命令書が現存しないので細部は不明であるが、次のように推測する。

【特別攻撃隊編成命令】

命令番号 六航空特攻発第〇〇〇号  
 発令年月日 昭和二十年三月二十七日  
 部隊名 特別攻撃隊 第七十九振武隊  
 人員 左記十二名

隊長 陸軍少尉 山田 信義  
 副隊長 同 拝司 総吉  
 隊員 同 清水 義雄  
 同 二村 源八  
 同 郷田 志郎  
 同 山本 研一  
 同 高橋 静夫  
 同 池田 保男  
 同 田中富太郎  
 同 陸軍曹長 佐藤 新平  
 同 陸軍軍曹 難波 武士  
 同 同 川島猪之助

使用機種 九九式高等練習機 十二機  
 飛行日程及び経路 左記

出發：桶川 四月五日、各務ヶ原・小月経由・四月七日知覧到着。  
 細部については後日指示する。

機体整備 整備の万全を期すため、小月飛機場まで六名整備員を同乗させた。

宿泊・給与 各務ヶ原・小月各飛行場大隊長に指示させる。  
 その他 必要事項は、そのつど指示する。

【桶川分教場の訓練状況】

拝司氏が戦後出版した『心乃饗宴』の中に「今日は晴の天命を拝してより五日目の演習日だ。出陣式をあと五日後に控え、本日は訓練の完成を期さねばならぬ日である。昨夜の川越での会食にて、また一段と隊員の気持ちはひとつに固まっていた。天命を拝してより出陣式までで一週間、乗ったことなき直協機をよくこの五日間に完全に自分のものとしたものだ」との記述がある。

それによると、特攻訓練は発令された三月二十七日から三十一日までの五日間、猛訓練が行われたようである。内容を要約すると次のような訓練であった。

ピストの近くに敷設された対空布板を第一目標に、高度六百メートルから四十五度の角度で急降下、レバー全開のため加速して速度計が四百キロメートル近くを指す。高度百メートルで引き起こし、地上すれすれで第二目標の大きな杉の木に向かう超低空飛行、手前百米で引き上げ、回避飛行後再び上昇して同じ操作を反復する。

訓練終了と共に各自の搭乗する機体も定められ出撃体制も完了したかに見えたが、ここに来て編成換えという事態が発生した。

【人事異動命令による特攻隊改編】

前記訓練終了後、浅井少佐より拝司少尉に対し、「次期特攻隊長要員として残留せよ」との部隊本部命令が伝えられた。

拝司少尉は突然のことに驚き、「寝食を共にし、共に訓練に励んだ仲間と一緒に出撃したい」旨を浅井少佐に伝え、命令変更を願い出たが、変更は叶わなかった。

その結果、他部隊から上野 実 伍長が転属して加わり、山本少尉が副隊長に命ぜられた。

拝司少尉の心境

特攻命令発令以来、「一緒に突入しよう、一緒に靖国へ行こう」と誓った仲間と、生木を裂くように一人だけ取り残された拝司少尉の心は平静を欠くほど千々に乱れた。『心乃饗宴』には、憤懣やるかたなき心境を、次のように吐露している。

「非道い、非道い。余にも残酷だ。出陣式を前にして、既に身も心も十二名にして十二名にあらざる一身より、自分だけ残れとは、如何に命とはいへ耐へがたし。他人の心を弄ぶ権利が部隊長にあるのか。

……口惜しい、口惜しい。急に悲しさを覚え、涙が頬を伝わった。」

その後の拝司少尉

次期特攻隊長要員として水戸北飛行場に配置された拝司少尉は、のちに第三九七振武隊長として、隊員と共に米軍の本土上陸に備えて訓練に励

み出撃の日を待ったが、遂に終戦となり、特攻作戦は行われなかった。

寄書きを拝司少尉に

拝司少尉の心境を察した隊員は、四月三日の夜、全員で色紙に各自が記入し、寄せ書きとして拝司少尉に贈った。

終戦後、少尉はこれを二部複製し、一部は自宅に、一部は山田隊長家に保管し、現品は知覧特攻平和会館に寄贈した。



特別攻撃隊 第79 振武隊 隊員名簿

役種	官位	氏名	期別	原隊	生年月(大正)	年令	出身県	摘	要
現	少尉	山田 信義	少 24	第6 錬成飛行隊	6	27	愛知	4/16	知覧より出撃して散華 06:40
予	少尉	清水 義雄	幹 9		11.5	22	滋賀	同	上
予	少尉	二村 源八	幹 9		11	22	大分	同	上
予	少尉	郷田 士郎	幹 9		10	23	大分	同	上
予	少尉	山本 研一	特 1		11	22	京都	同	上
予	少尉	高橋 静夫	特 1		7.10	26	東京	4/16	知覧より出撃して不時着
予	少尉	池田 保男	特 1		11.12	22	新潟	4/16	知覧より出撃して帰還 4/22 出撃
予	少尉	田中富太郎	特 1		12.2	21	群馬	4/16	知覧より出撃して散華 06:40
現	曹長	佐藤 新平	航 7		10	23	岩手	同	上
現	軍曹	難波 武士	昭 15		8	25	岡山	同	上
現	軍曹	川島猪之助	航 10		12	21	栃木	同	上
予	伍長	上野 實	航 11		12	21	茨城	同	上

<凡例> 少……少尉候補生 幹……幹部候補生 特……特別操縦見習士官  
 航……航空機乗員養成所 昭……昭和○年召集

高橋少尉……出撃後、機調不良となり珊瑚礁に不時着、救助されて知覧に戻ったが、飛行機がなく待機中に終戦を迎えた。池田少尉……出撃後爆弾が落下する故障により隊長の命令で帰還、4月22日に再出撃し散華した。